2023年度大学入学共通テスト解説＜世界史B＞

第1問　歴史の中の女性

A

問1　1　正解は④。

19世紀にフィンランドを領土とした空欄 ア の帝国はロシアである。ロシアは1814～15年のウィーン会議の結果，スウェーデンからフィンランドを獲得した。

④　**BRICS**（BRICs）は21世紀初めに世界各国から魅力のある投資先として注目された新興国群の総称である。この呼称は，当初**ブラジル**（B）**・ロシア連邦**（R）**・インド**（I）**・中華人民共和国**（C）の4カ国の頭文字を指しており，末尾は複数形を表す小文字のsであったが，**南アフリカ共和国**（S）を加えたことで大文字となった。

①　ロマノフ朝ロシア帝国の**ピョートル1世**は，**北方戦争**でイギリスではなく**スウェーデン**を破った。

②　ロシアではなく**デンマーク**についての説明である。19世紀後半にドイツ統一を目指したプロイセンはオーストリアとともにシュレスヴィヒ・ホルシュタインの帰属をめぐってデンマークとの間で戦争を起こし（**デンマーク戦争**），敗れたデンマークはシュレスヴィヒ・ホルシュタイン両公国を失った。

③　ロシアではなく**ポーランド**についての説明である。第一次世界大戦でロシアから独立したポーランドでは軍人の**ピウスツキ**（ピウスツキー）が台頭し，1920年代から独裁政治を行った。

問2　2　正解は③。

③　第一次世界大戦は総力戦となり，戦争遂行・勝利のためにイギリスは植民地の兵士も動員した。イギリスは**インドに対して戦後の自治を約束**し，100万人以上のインド人が戦地に投入された。

①　**オスマン帝国**は第一次世界大戦では協商国（連合国）側ではなく**同盟国側**に立って参戦した。第一次世界大戦ではドイツ・オーストリア＝ハンガリー帝国・ブルガリア・オスマン帝国の4カ国が同盟国陣営を形成した。

②　第一次世界大戦の西部戦線において，フランス軍は侵入するドイツ軍を**マルヌの戦い**で撃退した。東部戦線における**タンネンベルクの戦い**では，ドイツ軍がロシア軍を破った。

④　ロシア革命を指導してソヴィエト政権を樹立した**レーニン**は，全ロシア＝ソヴィエト会議において世界に対して「**平和に関する布告**」を発表した。**十四カ条の平和原則**を発表したのは，アメリカ合衆国の**ウィルソン**である。

問3　3　正解は②。

室井さんのメモ－誤文。先生の会話文よりニュージーランドでの女性参政権獲得は1893年であることが分かるが，ニュージーランドがイギリスの自治領となったのは20世紀前半の1907年のことであり，**自治領成立と女性参政権獲得の前後が逆**である。

渡部さんのメモ－正文。先生の最後の会話文中に第一次世界大戦中に**女性が工場などで働いたことが女性参政権の実現につながった**ことについて言及されている。さらに佐藤さんの会話文中にイギリスでは**1918年に女性参政権が認められた**ことが表記されている。

佐藤さんのメモ－誤文。アメリカ合衆国で**キング**牧師らを中心に**公民権運動**が展開されたのは，第二次世界大戦後の**1950～60年代**のことである。アメリカ合衆国で女性参政権が認められたのは，佐藤さんの会話文中から1920年のことであることが分かり，時期が異なる。

B

問4　4　正解は②。

②　顔之推（がんしすい）は『顔氏家訓（がんしかくん）』中で，北方の女性が活発であった風習の背景を，「平城（へいじょう）に都が置かれていた時代からの習わしであろうか」と推測している。**平城**に都を置いていたのは，**鮮卑**（せんぴ）が建国した**北魏**（ほくぎ）である。北魏は5世紀に華北を統一し，都を平城から洛陽（らくよう）に遷都している。

①　騎馬遊牧民の**匈奴**（きょうど）は4世紀前半の永嘉（えいか）の乱で**西晋**（せいしん）を滅ぼしたが，五胡十六国（ごこじゅうろっこく）時代の抗争で華北の支配権を鮮卑に取って代わられている。

③　貴族主導の**六朝**（りくちょう）**文化**がみられたのは，漢族を中心とする南方の**江南地方**である。顔之推は南方の女性について「社交をしない」など活発ではないと記述している。

④　南北朝時代を統一した隋（ずい）は北魏分裂後の西魏（せいぎ）・北周（ほくしゅう）の流れで成立した鮮卑系の国家ではあるが，隋の都は長安（ちょうあん）郊外の**大興城**（だいこうじょう）であり，都の位置が異なる。

問５　5　正解は①。

① 中国で女性皇帝となったのは，唐代の７世紀末の**則天武后**（武則天）である。華北を統一した北魏は鮮卑系であり，そこから分裂した西魏，その外戚が建国した**北周・隋・唐の帝室は北魏の流れを受ける鮮卑系国家**（**拓跋国家**）であった。そのため，王朝の連続性が文化の連続性と関連があると学生たちは考え，根拠としている。

② **唐**代前期の政治は**貴族勢力が強く**，科挙は施行されていたが**科挙官僚が政治の担い手となるほどの政治力を持たなかった**。また，科挙は儒学思想に基づく官吏任用試験であり，儒学思想は伝統的な価値観に対して大きな変革をもたらすことに積極的ではない。

③ **隋**代に**大運河**が完成して華北と江南がつながり，華北に江南のさまざまなものが大量に流入することとなった。唐の中心は華北であり，**江南の文化が華北にも浸透した場合には女性の活発さは失われる**ことになる。

④ **北魏**で**漢化政策**が進められると，**北方民族に南方の漢族の風習が浸透することになり**，このことによって**女性は活発さを失う**ことになる。

問６　6　正解は④。

④ 『**五経正義**』は唐代に編纂された**儒学の注釈書**である。唐の太宗（李世民）の命で，孔子の子孫である**孔穎達**らにより編纂され，国家による儒学の解釈の統一に寄与した。

① **清談**が流行したのは，**三国時代や晋代**である。また，清談は老荘思想などの哲学談義が中心であり，儒学に基づくものではない。

② **董仲舒**が儒学の官学化を提案したのは，**前漢の武帝**の時期である。

③ **寇謙之**が作った教団（新天師道）は**道教**であり，後漢に設立された五斗米道（天師道）などの民間信仰と神仙思想や道家思想が交わったもので，儒学に基づく教団ではない。

第２問　世界史上の君主の地位の継承

A

問１　7　正解は②。

② 会話文より，**図**中の**左の図柄**（ユリ）は，百年戦争中のクレシーの戦いでフランス王フィリップ６世とイングランド軍が使用していたことが分かる。クレシーの戦いはカペー朝断絶後に起こった百年戦争中の戦いであり，フランス・イングランド両王家はカペー家の家系に連なることからフランス王位をめぐって争い，両者は家系のつながりを明示するためにこの紋章を掲げていた。リード文中の**家系図**をさかのぼると，フランス王**アンリ４世から始まるブルボン家はカペー朝のフランス王ルイ９世に至り，カペー家と家系のつながりがある**ことを表していることが分かる。

① 小林さんの会話文より，クレシーの戦いで旗の図柄として用いたのは，**右の図柄**ではなく**左の図柄**であることが読み取れる。

③ ブルボン家の紋章の**左の図柄**はカペー家から続く**フランス王家**の紋章であり，右側は**ナバラ王家**（ナバラはイベリア半島北部）の紋章であることから，イングランドとの統合を表したものではない。

④ **家系図**と先生の会話文から，アンリ4世は父ではなく**母からナバラ王位を継承**していることが読み取れる。

問2 8 正解は①。

① **サン＝バルテルミの虐殺**は，フランスにおいてユグノー戦争中に発生したユグノー（新教徒，広義のプロテスタント，フランスのカルヴァン派）に対する弾圧事件である。ユグノー陣営の指導者であったナバラ王アンリ（後のアンリ4世）とフランス王妹の結婚式に参列するためにパリに集結した**多くのユグノーが，カトリック教徒によって殺害された**。

② **ドイツ農民戦争**を指導したのは，**ミュンツァー**である。**ツヴィングリ**は，スイスの**チューリヒ**で宗教改革を行った。

③ **国王至上法**（首長法）を発してイギリス国教会を設立したのは，**ヘンリ8世**である。ヘンリ7世はヘンリ8世の父で，バラ戦争を終結させてテューダー朝を創始し，王権を拡大した。

④ プロテスタントの勢力拡大に対して**カトリック**側は**対抗宗教改革**（反宗教改革）を推進し，**イグナティウス＝ロヨラ**やフランシスコ＝ザビエルらはカトリックの布教活動のために**イエズス会**を結成した。

問3 9 正解は②。

ア ―「ルイ14世」が入る。**ルイ14世**は即位当初は幼少であったために宰相**マザラン**の補佐を受けていたが，**マザランの死後に親政を開始**した。ルイ16世は傾いた財政を改革するためにテュルゴーやネッケルを財務総監に登用した。

イ ―「度重なる戦争によって戦費が膨れ上がっていました」が入る。ルイ14世は長い治世の中で，南ネーデルラント継承戦争・オランダ侵略戦争・ファルツ継承戦争・スペイン継承戦争など多くの国際戦争を起こし，**戦争遂行のために多くの戦費をかけた結果，財政状況を悪化させた**。**ネッケル**による財政改革を進めようとしたフランス王は**ルイ16世**である。

B

問４　10　正解は③。

資料１中の「私たちウマイヤ家」や，リード文中に表記された10世紀にファーティマ朝とともに支配者がカリフを称したという事実から，空欄 ウ には**後ウマイヤ朝**が入る。そのため，問題文の「10世紀に支配していた半島」は**イベリア半島**である。

③　モロッコで成立した**ムワッヒド朝**は**ベルベル人**が建国したイスラーム王朝で，**イベリア半島にも進出して**キリスト教徒の国土回復運動（レコンキスタ）と対峙した。

①　**アナトリア半島**に関する説明である。11世紀に中央アジアから西アジアに進出したトルコ系のセルジューク朝はビザンツ帝国を破ってこの地を支配した。ルーム＝セルジューク朝はその地方政権である。

②　イベリア半島最後のイスラーム王朝は，**ナスル朝**である。**ムラービト朝**は**モロッコ**で成立したイスラーム王朝で，イベリア半島にも進出した。

④　**アラビア半島**に関する説明である。18世紀にイブン＝アブドゥル＝ワッハーブによるイスラーム復古運動（ワッハーブ派）が展開され，サウード家と結び付いて**ワッハーブ王国**が建国されたが，19世紀にエジプト総督となった**ムハンマド＝アリーによって一度滅ぼされた**。その後復興したが，19世紀末に再び滅亡した。

問５　11　正解は①。

①　632年にムハンマドが死去すると，ムスリムの共同体（ウンマ）は選挙によってムハンマドの後継者（**カリフ**）として，ムハンマドの義父である**アブー＝バクル**を選出した。以降ウマル，ウスマーン，アリーと続く4人のカリフの時代を正統カリフ時代という。

②　1924年に**カリフ制の廃止**を宣言したのは，トルコ共和国の大統領となった**ムスタファ＝ケマル**である。**アブデュルハミト２世**は19世紀後半～20世紀初めのオスマン帝国のスルタンで，彼はカリフ位も称していたが，青年トルコ革命によって退位させられたものの，最後のカリフではない。

③　**ブワイフ朝**の君主はバグダードに入ると，アッバース朝のカリフの地位を認め，カリフから**大アミール**の称号を与えられて実権を握った。

④　アッバース朝（アッバース家）のカリフを擁立したのは，スンナ派のセルジューク朝・マムルーク朝・オスマン帝国である。**サファヴィー朝**はペルシア（イラン）で成立したイスラーム王朝だが，**シーア派**（十二イマーム派）を国教としている。

問６　12　正解は④。

④　**ファーティマ朝**はシーア派（イスマーイール派）を信奉し，**アッバース朝の権威を否定**して君主の称号としてカリフを称した。**資料２**でアッバース朝カリフがファーティマ朝成立時に地方総督に送った手紙で「ファーティマ朝カリフの系譜」を記し，「ア

リーの子孫である」ことに触れている。

① **資料1**でファーティマ朝のカリフについて「クライシュ族ではないため，カリフの資格がない」として否定しているが，**ファーティマ朝の成立は10世紀初め**であり，8世紀半ばに成立した**アッバース朝以降に成立した**。

② ファーティマ朝はスンナ派ではなく**シーア派**の一派が建てた王朝であり，**資料1**ではファーティマ朝の系譜について「クライシュ族ではない」や「系譜学者たちは誰一人彼を知らなかった」などと表記しており，カリフとして認めていないことが読み取れる。

③ ファーティマ朝がエジプトに進出して**カイロ**を首都としたことは正しい。しかし，**資料2**では「ファーティマ朝にシリアやエジプトを奪われた」とあり，ファーティマ朝がシリアやエジプトを取り戻せないという部分は誤りである。**取り戻せないという無能力はアッバース朝やその一派を指している**。

第3問　歴史知識に関する議論

A

問1　13　正解は④。

先生の会話文の「ライプツィヒで彼が退位に追い込まれて島流しにあったこと」や「彼が追放された地中海の島から脱出し，フランスに帰還する様子が象徴的に描かれている」という部分から，**図**はナポレオンのエルバ島脱出を描いたものであることが分かる。また，「**図**の出来事が起こった時に，フランスを統治していた国王」とあることから，この国王は**ナポレオン1世**が最初に退位した後に国王となった**ルイ18世**ということが分かる。

④ ルイ18世はナポレオン戦争後のウィーン会議で国王になることが決まり，フランスでは**ブルボン朝**の王政が復古した。

① アルジェリアを占領したのは**シャルル10世**である。ルイ18世の弟で，国内政治の不満を外にそらす目的で，**アルジェリア出兵**を行った。

② **恐怖政治**が行われたのは，フランス革命中の国民公会の時代，**ジャコバン政権**の時のことである。

③ **ヴァレンヌ逃亡事件**のことを示している。ヴァレンヌ逃亡事件は，**ルイ16世**と王妃**マリ＝アントワネット**がオーストリアへの逃亡を図ったが，失敗した事件である。

問2　14　正解は②。

ア－岡村さんの会話文に，**トゥサン＝ルヴェルチュール**が　ア　の独立運動を指導した，とあることから，**ア**は**ハイチ**となり，図中のaが正解となる。

イ－先生の会話文に，ナポレオンが復活した後，再び対仏同盟軍に敗れて　イ　に流されたとあることから，**イ**は**セントヘレナ島**となり，cが正解となる。なお，bはナポレオンが最初に配流された後に脱出した**エルバ島**である。

B

問3　15　正解は③。

先生の会話文に，　ウ　が宋代に生まれた新しい学問であることと，科挙合格のための官学であったとあることから，　ウ　には**朱子学**（**宋学**）が入る。

③　朱子学は，臨安を都としていた**南宋**の**朱熹**（**朱子**）が大成し，**四書を重視**した。

①　**科挙**は，それまでの**九品中正**に代わって，**隋**の**楊堅**（文帝）によって創始された官吏登用制度である。**書院**は宋代以降各地で開かれた私塾である。

②　金の支配下で儒教・仏教・道教の三教の調和を説いた王重陽は，新たな道教である**全真教**を開いた。

④　**王守仁**（**王陽明**）が開いたのは**陽明学**である。陽明学は，南宋の**陸九淵**の説を継承して明代に成立した儒学の一派である。

問4　16　正解は④。

④　問題文に出てくる**顧炎武**は明末清初の人物で，**考証学の先駆者**である。先生の会話で，「彼が同時代のこととして見聞した」や「書院を拠点とした争い」とあることから，　エ　には明末に起こった**東林派と非東林派の党争**が入ることが分かる。

①　**太平道**は**張角**が始めた民間宗教とその結社で，黄巾の乱は後漢末の184年に張角が起こした宗教反乱である。

②　秦檜と岳飛が対立したのは南宋でのことである。12世紀に金による**靖康の変**で北宋が滅び，その後南宋が成立したが，金と和平を唱える秦檜と，抗戦を唱える岳飛が対立し，岳飛は獄死した。

③　**土木の変**が起きたのは15世紀半ばの明代である。**オイラトのエセン**との戦いで，明の**正統帝**（英宗）が土木堡で捕虜となった事件である。

問５　17　正解は①。

あ－下線部ⓐで，中国で科挙の開始より古い時代の人材登用制度とあるので，候補は前漢から始まる**郷挙里選**か魏から始まる九品中正となり，これが郷挙里選の説明となるので正文となる。

い－文は九品中正についてのものだが，九品中正の結果，**門閥貴族が高官を独占し政治の実権を握ることとなる**ので，「貴族の高官独占が抑制された」という部分が誤りである。

X－先生の会話文に，「江戸時代の朝鮮の知識人が日本に科挙がないことで官職が世襲となり，埋もれた人材がいる」と述べていることから，正文となる。

Y－先生の会話文に，**江戸時代の儒学者が「周代の制度を参考にして，文才ではなく人柄を重視しようとした**」とあることから，誤文となる。

したがって，正解はあ－Xである。

C

問６　18　正解は④。

④　内藤さんの会話文に，［オ］は「18世紀に中国で編纂された」とあることから，［オ］には清代に乾隆帝によって編纂された『**四庫全書**』が入る。また，清では，**順治帝が中国へ侵入して以降，漢人男性に辮髪を強制した。**

①　『**四書大全**』は，**明の永楽帝が編纂を命じた四書の注釈書**である。また，明では**洪武帝が中書省を廃止**して，六部を皇帝直属とすることで皇帝に権力を集中させた。

問７　19　正解は①。

あ－教授の会話文で，『漢書』は１世紀にできた歴史書であり，六芸略は儒学の経典を主に収める分類であることが分かる。『**詩経**』**は戦国時代に編纂されたものであり，五経の一つである**ことから掲載されていると判断する。

い－『**資治通鑑**』**は，北宋の司馬光が編纂した編年体による歴史書**であることから，『漢書』には掲載されていない。

問８　20　正解は③。

③　**資料１**には，中国の歴史書が掲載されていることが分かる。**中国の正史は，本紀と列伝を主体とする紀伝体によって著されている**ことから正文となる。

①　教授の会話文に，**資料２**の『**漢書**』**が著された時代には史部という分類が存在していなかった**，とあることから誤文となる。

②　「３世紀から６世紀にかけて，木版印刷の技術が普及した」とあるが，**木版印刷が本格的に始まったのは唐代の８世紀から**のため，誤文となる。

④　内藤さんの会話文に，［オ］（『**四庫全書**』）**が18世紀に編纂されたとあり，『四庫全書』は四部分類されていた**ことから，誤文となる。

第４問　歴史資料についての考察

A

問１　21　正解は③。

③　広田さんの会話文に，**貨幣１**は「**７世紀前半に発行国の首都コンスタンティノープルで造られた**」とあることから，東ローマ帝国（ビザンツ帝国）で発行されたことが分かる。東ローマ帝国では，６世紀に**ユスティニアヌス帝が『ローマ法大全』を編纂させている**ことから，正文となる。

①　ゾロアスター教を国教としたのはササン朝ペルシアである。**東ローマ帝国では，主にギリシア正教が信仰された**。

②　鈴木さんの会話文で，**ムアーウィヤが開いた王朝で貨幣が発行された**ことが分かる。また，佐々木さんの会話文に，**貨幣２**は**その王朝が７世紀後半に発行したもの**だとあることから，**貨幣２を発行したのはウマイヤ朝**だということが分かる。**パルティア**は，**３世紀にササン朝ペルシアによって滅ぼされた**ことから，誤文となる。

④　**貨幣２**を発行したのがウマイヤ朝であり，**ウマイヤ朝の都はダマスクス**なので誤文となる。バグダードに都を置いたのは，**アッバース朝**である。

問２　22　正解は②。

佐々木さんのメモ－貨幣２を発行したのは**問１**からウマイヤ朝である。先生の会話文から，**ウマイヤ朝では行政においてギリシア語やペルシア語が使用されていた**ことが分かる。また，ウマイヤ朝では７世紀末からアラビア語が公用語化されており，先生の会話文でも**行政で用いる言語をアラビア語に変更した**，とあるので，正文となる。

鈴木さんのメモ－佐々木さんの会話文に，**貨幣２**は**貨幣１**を模倣して発行されたとあり，**裏面にはアラビア語（『コーラン』の言語）の銘文が刻まれている**とある。また，鈴木さんの会話文に，「**十字架が１本の棒の図柄に変えられている**」とあることから，正文となる。

広田さんのメモ－ソリドゥス金貨（ノミスマ）は，４世紀にローマ帝国のコンスタンティヌス帝によって発行が始められた金貨である。**ヴァンダル王国を滅ぼしたのは６世紀のビザンツ帝国（東ローマ帝国）のユスティニアヌス帝**であるため，誤文となる。

B

問３　23　正解は⑤。

ア　－**い**が入る。**マラトンの戦いはペルシア戦争中の前490年の出来事である**。先生の会話文で，「**ヘラクレイデスはアリストテレスの下で学んでいた**」とあることから，**おおよそ前４世紀頃の人物**だと判断できる（正確な年代が分からなくても，アリスト

テレスがアレクサンドロス大王の家庭教師だったことを思い出せば，前4世紀頃と判断できる)。先生の会話文で，**資料1と資料2を著した人物が，2人とも五賢帝時代（後96～180年）に活躍した**とあることから，**あ**は誤文となり，**い**が正文となる。

イ －Yが入る。松山さんの会話文で，「マラトンの戦いに時代が近い人物が信頼できる」とあることから，**資料2の著者より資料1のヘラクレイデスのほうが時代が近い**ため，イ にはYのテルシッポスが入る。Xのエウクレスは，**資料1**の中で「今の多くの人々」とあることから五賢帝時代の人々が言っていることになり，Zのフィリッピデスも**資料2**は五賢帝時代のものであることから，**ヘラクレイデスより時代が後になる**ために誤りとなる。

したがって，正解はい－Yである。

問4 24 正解は①。

先生の会話文から，ウ は，マラトンの戦いを含む戦争だということ，また，ウ を主題とした紀元前5世紀の歴史家の著作があることから，ウ **はペルシア戦争**であり，**歴史家はヘロドトス**であろうと推察できる。

① ペルシア戦争は，イオニア地方のギリシア人の反乱から起こったものである。

② ペルシア戦争でギリシア人と戦ったのは**アケメネス朝ペルシア**である。**エフタルは，6世紀にササン朝ペルシアと突厥の攻撃によって滅びた。**

③ ペルシア戦争後に，アテネを盟主として結成されたのはデロス同盟である。**コリントス同盟は前4世紀にマケドニア王フィリッポス2世が結成**したものである。

④ ペルシア戦争では，アテネとスパルタの連合軍が，**プラタイアイの戦いに勝利**している。

問5 25 正解は③。

③ **プルタルコスは『対比列伝』の著者である。**先生の会話文で，**資料1を書いたのが『対比列伝』の著者**であることが分かる。**資料1**には使者はテルシッポスとエウクレスの説があると記されている。

① **ペイシストラトスは前6世紀にアテネの僭主（せんしゅ）となった人物**で，ペルシア戦争以前の人物である。

② トゥキディデスは，『歴史』の中で**ペロポネソス戦争に関する記述をしている**ことから，誤文となる。ペルシア戦争を題材としたのは，ヘロドトスの『歴史』である。

④ 先生の会話文で，ウ のペルシア戦争を題材とした歴史家（ヘロドトス）が，『歴史』のなかで**資料2のフィリッピデスはマラトンの戦いの前にスパルタに派遣された使者と言及されている，とある**ことから**資料2**はヘロドトスの記述を正確に反映していないと分かる。

C

問6　26　正解は③。

エ　－**資料1**では，**ブリテン島にサクソン人，アングル人，ジュート人が訪れたとある**ことから，ゲルマン人の大移動が入る。**東方植民**は，12～14世紀に起こった，エルベ川以東への**ドイツ人の植民・開墾運動**である。

あ－リード文の中に，「**ゲルマンの三つの民**」（**アングル人，サクソン人，ジュート人**）**の出身地が北西ドイツとその周辺**とあり，**大陸から渡来**してきたことが分かる。**資料1**には，アングル人を含む三民族が渡来したことが記されていることから，**資料1**について述べているのは**あ**となる。

い－**資料2**には，アングル人，サクソン人，ジュート人の三民族のうち，アングル人しか表記されていない。**資料3**をみると，**ブリテン島から来た住民はアングル人と呼ばれている**とある。また，リード文には，「**アングル人**」**は英語を話す人々を包括的に表す際の用語ともなっていった**，とあることから，**資料2**のアングル人は，サクソン人やジュート人を含めた総称となっていることが分かるので，**資料2**について述べているのは**い**となる。

したがって，正解は　エ　**はゲルマン人の大移動，資料1はあ，資料2はいである。**

問7　27　正解は②。

資料1－マルキアヌスの注に**カルケドン公会議**（451年）を開いた皇帝とあることから，5世紀のことだと判断する。

資料3－**グレゴリウス1世**は6世紀末に即位した教皇である。

資料2－最初に，「私ことベーダが執筆している今のブリテン島」とあり，問題文に**資料1～3**はベーダが731年に執筆した著作とあるので，**資料2**が起こったのは8世紀頃のことだと分かる。

したがって，正解は資料1→資料3→資料2の順である。

問8　28　正解は②。

②　**ジョン＝ボール**は，1381年にイギリスで起こった**ワット＝タイラーの乱**を思想的に指導した人物である。

①　フランク王国の**クローヴィス**はアタナシウス派に改宗したことによって，**ローマ教会の支持を得ることに成功した**。

③　**コンスタンティヌス帝**がキリスト教徒を取り込むために発布したのは**ミラノ勅令**である。**統一法**は，1559年にイギリス王**エリザベス1世**が発布したものである。

④　**第1回十字軍を提唱したのはウルバヌス2世である。ボニファティウス8世**は，14世紀初頭の**アナーニ事件**で，仏王フィリップ4世に捕らえられた教皇である。

第５問　歴史統計

A

問１　29　正解は①。

下線部ⓐのマラヤの宗主国はイギリスである。

① イギリスは19世紀前半に東インド会社のラッフルズがジョホール王から**シンガポール**を買収して拠点とし，その周辺地域であるマレー半島を勢力圏に組み込んで19世紀末にマレー連合州を形成した。

② イギリス東インド会社は，**19世紀前半にインド・中国の貿易独占権を廃止された**。その後，19世紀半ばに起こったインド大反乱を契機に東インド会社は解散された。

③ **公行の廃止**が定められたのは，アヘン戦争で締結された1842年の**南京条約**である。**北京議定書**は1901年に締結された，**義和団事件**（北清事変）の講和条約である。

④ **オタワ会議**（オタワ連邦会議）は1932年に開催された，イギリスと自治領が世界恐慌への対応を討議した会議であり，ここで**スターリング＝ブロック**（ポンド＝ブロック）**が形成された**。

問２　30　正解は③。

ア　ーアメリカ合衆国が入る。植民地の貿易相手上位国に関する石田さんの会話文で「4地域の中で宗主国がトップなのは一つだけです」とあるが，インドネシアの宗主国であるオランダ，マラヤの宗主国であるイギリス，インドシナの宗主国であるフランスがトップになっておらず，**トップなのはフィリピンである**ことが分かる。1929年当時**フィリピンを支配していた宗主国はアメリカ合衆国**である。そして，マラヤ（マレー）の輸出に関する先生の会話文で「ゴムの需要が高まっていた」とあり，アメリカ合衆国は**自動車などの工業製品の大量生産**のためにマラヤから多くの工業原料を輸入していた。そのため，下線部ⓑの背景として最も適当な文はXの「大量生産方式により，自動車の普及が進んだ。」となる。ドイツは第一次世界大戦で海外植民地を失っており，また，アウトバーンの建設はナチス政権が成立した1933年以降のことで，統計が取られた1929年よりも後の年代である。

問３　31　正解は②。

② **マラヤ**では**ゴムプランテーション**（ゴム園）や錫鉱山で大量の労働者を必要としており，外部から多くの移民が流入した。また，**表**のインドネシアの輸出先のうち，**マラヤは１位である**。

① インドネシアでは**コーヒーやサトウキビなどの商品作物の生産**が行われており，宗

主国であるオランダは輸出額の21.0%を占めている。その他の植民地の輸出額上位国を見ると，マラヤは宗主国であるイギリスへの輸出額の割合は14.3%であり，**インドネシアの宗主国向け輸出額の割合は２番目に低い**。

③　**強制栽培制度**による商品作物生産が行われていたのはフィリピンではなく**インドネシア**である。なお，輸出額の割合については，輸出額上位国のうち［ア］のアメリカ合衆国・イギリス・フランスの３カ国で８割を超えているため，**アジア向け輸出額の割合は全体の２割以下**となり，正しい。

④　**表**よりインドシナの輸出額が最大の地域は香港であるが，**香港はイギリスの植民地**であり，**インドシナを植民地として支配したフランス**とは宗主国が異なる。

B

問４　［32］　正解は①。

①　**表１**について，18世紀後半にあたる1750年から1801年にあたる時期の**都市人口比率を見ると，21.00%から27.50%に上昇している**。18世紀のイギリスでは，耕地を確保するための議会立法による**囲い込み**（第２次囲い込み）の進行や，**ノーフォーク農法**の導入に代表される新農法の導入により，農業生産量が大きく増加した。このことは非農業従事者が農村から都市に流入して工場労働者となることにつながった。

②　**都市人口比率は上昇している**（①参照）。また，イギリスで**鉄道の運行**が始まったのは**19世紀**になってからのことである。

③　**表２**について，1750年から1801年の**農村農業人口100人当たりの総人口が219人から276人に上昇している**。また，**農業調整法**（AAA）は20世紀に**アメリカ合衆国**で制定された。

④　**農村農業人口100人当たりの総人口は上昇している**（③参照）。また，イギリスで**穀物法が廃止**されて穀物輸入が自由化されたのは，**19世紀半ば**のことである。

問５　［33］　正解は①。

①　**アイルランド**では，1840年代に**ジャガイモの不作による大飢饉**が発生して多くの死者を出したほか，アイルランドから国外に移住する人たちが多かった。特にアメリカ合衆国への移民は多く，**グラフ**では**1840年代後半から1850年代前半にかけてアイルランドからの移民数が急増している**。

②　**グラフ**では1850年代後半にアイルランドからアメリカ合衆国への移民数が減少しているが，アイルランドが**クロムウェル**によって征服されたのは**17世紀中頃**の共和政期であり，年代が異なる。

③　**グラフ**では1870年よりも1875年のイギリスからアメリカ合衆国への移民数は減少

しているが，アメリカ合衆国で**南北戦争**が始まったのは**1861年**のことであり，年代が異なる。

④　1890年代初めにアメリカ合衆国で**フロンティアの消滅**が宣言されたことは正しいが，**グラフの1895年のイギリスからアメリカ合衆国への移民数は1890年を下回っており，移民数は減少している**。

問6　34　正解は②。

②　18世紀に**ダービー**父子は石炭を蒸し焼きにして**コークス**を精製して燃料とすることに成功し，溶鉱炉における高温での製鉄を可能にした（コークス製鉄法）。これにより製鉄効率が向上し，イギリス産業革命の進展に大きな影響を与えた。

①　**綿製品・茶・アヘン**などを取引したのは，イギリス・インド・中国を頂点とする**アジアの三角貿易**である。**大西洋三角貿易**では**黒人奴隷・火器・砂糖・タバコ**などが取引された。

③　イギリスで選挙権の拡大を目指して行われた政治運動は，**チャーティスト運動**と呼ばれる。産業革命の進展による機械での生産が普及すると，従来の職人たちの職が奪われることへの危惧から，19世紀前半に各地で**機械打ちこわし運動**が起こった。特に1811～17年にイングランド中・北部で起こった機械打ちこわし運動を**ラダイト運動**というが，これはイギリスで第1回選挙法改正が行われた1832年以前のことである。

④　1833年に制定された**工場法**（一般工場法）は，18歳未満の労働者に対する夜業禁止や工場監督官の設置などの労働問題に関する内容であり，公衆衛生に関するものではない。